

4～5月どり寒玉系キャベツの品種特性に及ぼす 栽植密度及び施肥量の影響

加工業務用適性の高い寒玉系キャベツの4～5月どりは、抽だいや不結球等によって生産が安定しません。また、加工業務用キャベツの重量や大きさなどの実需者ニーズは多様です。そこで、栽植密度と施肥量との組み合わせが4～5月どり寒玉系キャベツの結球特性に及ぼす影響について明らかにしました。

結球重について、標準栽植密度（60×35cm、4,760株/10a）と比べると株間を狭めた密植（60×30cm、5,550株/10a）では約5%、畝間と株間を狭めた密植（45×30cm、7,400株/10a）では約25%減少します。また、4月どりでは抽だい程度がやや進みますが、商品価値に影響することはありません（図1、2）。

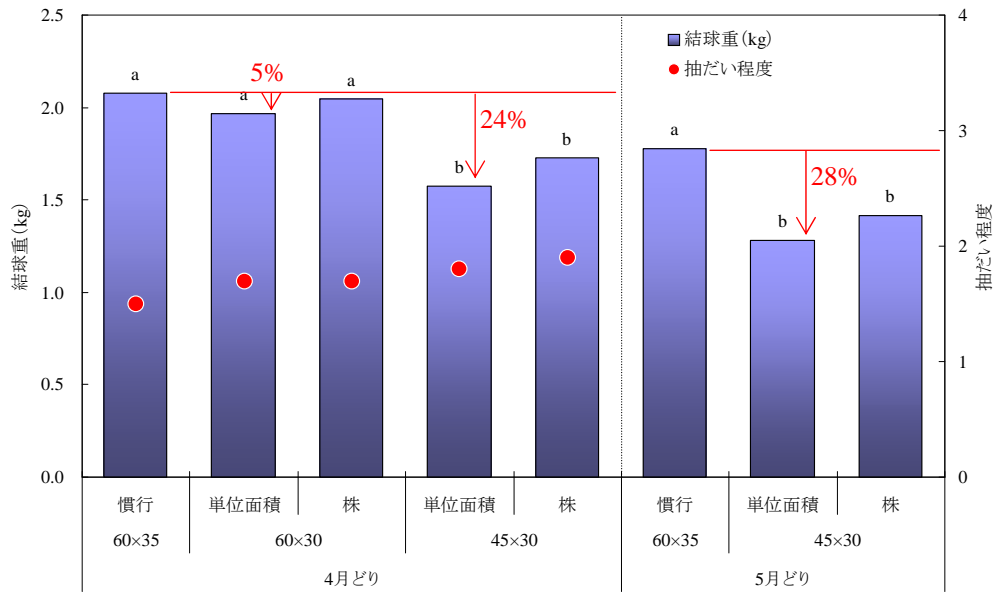


図1 栽植密度及び施肥量が結球重と抽だい程度に及ぼす影響

注) 4月どり：品種‘冬のぼり’、2008年8月25日播種、同年9月25日定植、2009年3月下旬～5月上旬に調査した個体の平均値、5月どり：品種‘さつき女王’、2008年10月17日播種、同年11月21日定植、2009年5月上旬～下旬に調査した個体の平均値、慣行施肥量は成分でN:P₂O₅:K₂O=22:20:22kg/10a、株は慣行1株当たりの施肥量に10a当たりの栽植株数を乗じた量を施用、抽だい程度は縦断面の目視により、0：頂花蕾が確認できない（花芽分化なし）、1：頂花蕾確認、2：頂花蕾伸長初期（脇芽確認）、3：頂花蕾伸長（脇芽の肥大）、4：頂花蕾伸長甚大（節間伸長開始）（球内抽だい）の5段階で評価した（抽だい程度3に達するまでは出荷可能と想定）、異なるアルファベット間にはTukeyの多重検定により5%水準で有意差あり。

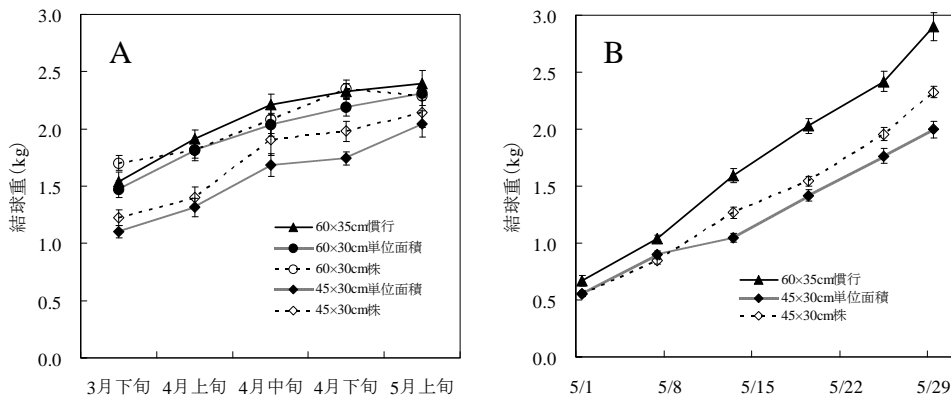


図2 4月どり（A：冬のぼり）及び5月どり（B：さつき女王）寒玉系キャベツの時期別結球重の推移

注) 耕種概要は図1参照。
神奈川県農業技術センター（2010.11.1）